

沙羅の樹文庫だより



評論社刊

夏きことを海月に語る海鼠かな

黒柳昌波

冬が来た。白い樹樹の光を

体のうちに蓄積しておいて 夜ふかく眠る

前田夕暮

うづみ火に少し春あるこちして

夜ふかき冬をなぐさむるかな

藤原俊成

(大岡信『折々のうた』から冬のうたより)

文庫あれこれ◆今回は心をからにして空と海を眺めながらやってきました。一点の雲もない青空も、流れる雲も素敵ですが、暗雲たれ込める上方の、白い雲の間から日の斜光が海面を上げて突き抜ける様はまた格別ですね。もっと上には青空が広がり、雲の宮殿が見えたりする。アンデルセンの「野の白鳥」の白鳥になった兄たちが味を棄てて海をわたるシーンが浮かんできました。◆などと、ノビリしている暇はない年の瀬となりました。◆でも、ここに来ると、前に大島、後ろに大室山を見晴らす自然に抱かれて暮らしているみなさんとまた違った感慨を月ごとに味わえたりもします。◆さて、健康元気とは言えない一年でしたが、また新しい体験をしました。毎日歩いて疲れていたのも遠因かもしれませんが、ある夜、ソファでうたた寝から起きた途端、目の前がくぐる回りの出し、こりゃ脳梗塞にでも(代々高血圧で脳卒中家系)と思い、そのままベッドへ、引っ張られるように寝込んだのですが、しばらくしてトイレにと思ったら、天地がひっくり返るようなめまいがして、おまけにひどい吐き気(ご容赦)に見舞われ、ともかく朝を待って娘に来てもらって近くの病院へ。何のことはない、点滴と注射でだいふ収まったのですが、未だにふらつき、おまけに腰痛が始まり……。めまいの原因は耳の中の耳石が定位置からずれて起きる「頭位変換性めまい」でした。聴いてみると知人の何人も罹ったことがあると。夫に泣き言をメールしたら「勝手に泣け」と。確かに体調管理のできない我が身のいたらな。でも、これでも、体調不良の年納めといきたいです。◆10月から3つの介護施設へ絵本や紙芝居を読みに通っています。絵本2冊、紙芝居2つ、お話しひとつ、そしてみんなで歌う歌。プログラムを考えるのが結構大変。この頃は懐かしい歌を口ずさんでいます。冬景色、たき火、冬の星座、ベチカ、たこあけ、四季のうた 等等。◆今月入った子どもの本のところに、クリスマスの本の紹介を入れまして1冊借りていって、静かな夜にお読みください◆今年も沙羅の樹を活用くださり有難うございました。お健やかに新しい年をおむかえなされますよう。◆来年は文庫も10歳、もう少し続けられるよう、体調を整えます。◆**文庫があつていい**と思われる方、どうぞ、10年誌への原稿をお願いします(まるで贅し?)。◆大島の上に太陽がのぼって、海面は金の粉を敷きつめたようです。いいお天気になりそうです。(西村)

◆2015 開館スケジュール◆

- ◆12月は通常 19日(土)20日(日)
- ★20日前クリスマス会あります。プレゼントお持ちください★
- ◆2016 開館スケジュール◆
- ◆1月は通常 16日(土)17日(日)
- ◆2月は通常 20日(土)21日(日)
- ◆3月は通常 19日(土)20日(日)
- ◆4月は通常 16日(土)17日(日)

文庫の時間
土曜日は午後2時～5時
日曜日は午前10時～午後3時

☆子どものための小さなおはなし会
毎月開館日の日曜 10:30～11:00

★おはなし沙羅の勉強会★
毎月開館日(土) 11:00～13:00



高木さん会員の縁起物展
於 ギャラリーセロ
540117

沙羅の樹文庫 0557-51-3737
<http://www.saranokibunko.com>
伊東市大室高原7-122

2015年11月に読んだ本についての感想 2015.12.17 by 森林浴

開戦の正体 孫崎 享著 祥伝社刊 2015年6月第3版

この本で、著者は今大変な危機感を持っていると書いている。——原発の再稼働・TPPへの参加・消費税の増税・集団的自衛権・特定秘密保護法など——日本の生き方を根本的に変える動き——に対してである。こういう最近の動きがちょうどかつて日本が太平洋戦争に踏み込む一真珠湾攻撃を開始した時と同じ動きである、あの時の大失敗をまた繰り返そうとしているが、それでいいのか!と。特色は当時のすべての関係者(昭和天皇、政治家、軍人、外交官、文化人など)の個人、個人の功罪を容赦なく、羅列して責任追及していることで、これはなかなかできることではないが、また反発・恨みも買い易くなるだろうと想像する。

孫崎氏はすでに「戦後史の正体」という本を創元社から出版、22万部売れたそうだが、どうしてか、大手新聞の書評もなく、賞ももらえなかった、という。(この本は「戦後の日本で、米国の圧倒的な影響力の下、日本の首相が自主を唱えたとときにどうなるか」を焦点として戦後の歴史を見た本だそうだが、どうしても現政権に対する批判が出てくるせいであろうか。)著者はもと外交官。しかし、一緒に戦ってくれる仲間は殆どいないらしい。その孤独感・焦燥感が痛いほど感じられる。それどころか、危険を感じながらあえて主張を通しているのだという悲壮感さうかがえる。危険?しかし、戦前の日本では、正論を主張する人もしばしば社会的に抹殺されるか、暗殺されたものです。現在の日本ではそんなことはない?しかし在りうるのです。著者を巡っては「NHKには出させない」「この人の出版は差し控えるべきだ」などの動きがあるそうです。また新潟県知事の泉田裕彦氏は、新潟の東京電力柏崎菟羽原発の再稼働に

反対を貫いているので知られていますが、「もし僕が自殺なんてことになったら、絶対に違うので調べてください。」と言っていること紹介されています。日本はもう権力に逆らうと言論封殺はおろかもっと怖い目にあう国になっているのでしょうか。

この本の終わりの方に、こんな箇所もあります。『中国人で日本人と結婚しているある女性—しばしば政界や財界のトップとの通訳になるとのこと—が曰く、「私がかかりすることがあります。それは首脳会談をするときです。——中国は上にいけばいほどIQが高くなります。日本は政界も経済界も、IQが低くなります。オバマ大統領はハーバード・ロー・スクールで「ハーバード・ロー・レビュー」の編集長になっています。ドイツのメルケル首相は科学アカデミーに就職し、理論物理学を研究し、博士号を取得しています。キャメロン英国首相はオックスフォード大学で哲学、政治学、経済学を学び、1級優等学位を得て卒業しています。——なのに日本は一体どうなっているんですか?——』と。うーん、まあこれも著者孫崎さんの言いたい本音なのでしょう。



★駐車について★
気持ちよく来館いただきたいのに、毎回ご面倒をおかけしていますが、個人的な活動では、もう駐車を増やす余裕はありません。今後ともご理解の上、ご利用くださいますようお願いいたします。沙羅の樹文庫

『第二次世界大戦 上 1939-45』アントニー・ビーヴァー著 平賀秀明訳 白水社刊 2015年9月第4版

これは素晴らしい本だ。著者は英国の戦史ノンフィクション作家。上・中・下3冊いずれも500頁を超す大部の本で、まだ上巻しか読んでないけど、読み通すのは大変だが読みだすと一気に終わりまでやめられない。上巻ではヒトラーのナチスドイツがヨーロッパを蹂躪し、ソビエトロシアにも攻め込むヨーロッパ中心の歴史が大半だが、受けて戦うべき相手の英国・フランスは頼りなく、米国の戦争に巻き込むことが、絶対絶命の要請だったことが良くわかる。(だから日本の真珠湾攻撃による米国の大戦参加は英・仏にとってはまさに「待ってました」、と言うべき望望の一大転機だったのだ。)それにしてもドイツという国はなにか恐ろしい国だ、9月の感想文で取り上げた時、エマニュエル・トッドの主題「ドイツの恐ろしさ」というのが、もう一つピンとこなかったが、ヒトラーのドイツの恐るべき強さがこの本でよくわかり、ヨーロッパ人がドイツに対して持つ底深い恐怖感が少し理解できるようになった。

日本は第4章の「龍と旭日」と第16章「真珠湾」に登場する。実に精細・緻密に史実を拾いあげており、見事な出来だ。写真も入っているが、最初の1枚が、日本軍による南京での中国人捕虜の虐殺事件のもの。またこの本ではいつも日中間での論争の種になる南京で殺された民間人の数を「20万人近くといったところだろう。」としている。(中国はたしか80万人と主張している?)何をすることも、正確な歴史を知らずして動くのは危険。こういう本こそ歴史学習の基本にしたらよいのではないかな。

それにしても、戦争とはいかに膨大な数の人間を残酷無残・冷酷無比に殺すものだろうか、読み進めると時々吐き気を催さざるを得ない。

15年12月に入った子どもの本

絵本

*クリスマス絵本(第2弾)

『ゆきだるまのクリスマス』(キャラリン・ビーナー文 マーク・ビーナー絵 せなあひこ訳 評論社 ID11822 『おおいツリーちいさいツリー』(ロバート・バリーさく 光吉夏弥やく 大日本図書)ID11823 『トムテと赤いマフラー』レーナ・アック作 カタリーナ・クルズヴァル絵 菱木晃子訳 光村教育図書)ID11821 『スキヤリーおじさんのどうぶつたちのメリークリスマス』(リチャード・スキヤリー文 キャサリン・ジャクソンぶん BL出版)ID11821

*なつかしい絵本・文庫におきたい絵本

『アンリくん、バリへ行こう』(ソール・バス文 レオノール・クライン絵 P-Vine Books ID11824 『ばばあちゃんのおもちつき』(さとうわきこ作 福音館書店)ID11825 『でんでんむしのかなしみ』(新美南吉作 鈴木靖将 講談社)ID11826 『さるのひとりごと』(松谷みよ子文 司修絵 童心社)ID11827※request 『こんぎつね』(朝倉撰絵 新美南吉文 講談社)ID11827

読み物

* (低学年) : 徳間書店刊

『こぎげんすてご』(いとうひろしさく) ID11829 『きつねのスケート』(ゆみとかずみ文 ほりかわりまこ絵)ID11830 『ルー・ジといじわるなへいたいさん』(ルイス・スロボトキン作・絵 こみやゆう訳) ID11832 『おさわがせなパーティくん』(ケネス・グレム作 A・H・シェパード絵)ID11829 『うちへ帰れなくなったパパ』(ラグンヒルト・ニルスツン作 山内清子訳 はたこうしろう絵)ID11831

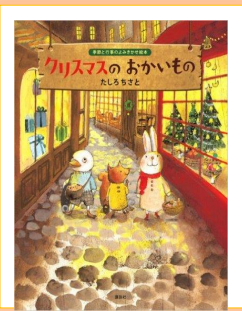
読み物

*少し大きい人向き

『岬のマヨイガ』(柏葉幸子著 講談社 2015) ID11836 『九月の口伝』(後藤竜二作 高田三郎絵 汐文社) ID11837 『がれきのなかの小鳥』(カーリー・ピッセルズ・文 野坂悦子訳 文溪堂) ID11834 『ヘフツィール物語』(A・レバトゥン作 岡田和也訳 きたやまようこ絵 未知谷) ID11839 『大きなたまご』(オリバー・バターワース作 松岡享子訳 岩波少年文庫) ID11835

*参考図書

『10代のためのYAブックガイド150!』(金原瑞人、ひこ・田中監修 ポプラ社 2015) ID11838



蔵書の検索ミスで、同じ本を買ってしまうことがあります。これもそうなのですが、何気ない友情の素晴らしさが描かれていて、改めていい

本だなと思えました。クリスマスの棚にあります。お子さんと楽しんでください。クリスマス絵本、70冊以上あります。

クリスマスの物語

私が所属しているおはなし NPO の町田市立文学館での12月のおはなし会では、町田ゆかりの人としてシュリーマン(町田に滞在したので)が紹介され、3つのお話はノーベル文学賞を受けたアイザック・ジンガー作「つくりものの天国」、新潟の昔話「かねっこおり(つらら)女房」、最後はイエス生誕外伝「三人の王さま」でした。みんな心に響くよいお話で、特にクリスマスにちなんだ最後のお話はクリスチャンでないのに、語りが真摯で心地よい余韻にひたりました。ここに、クリスマスの読み物を紹介しましょう。クリスマスの近づく夜々、子どもも大人も、家族でひとりで、味わってみてください。絵本の部屋入ってすぐ左の小さい棚に別置きしてあります。

比較的短いもの:

『クリスマスの子』(ルーマ・ゴッテン) 『サンタクロースに会いました』(増田久雄) 『いそがしいクリスマス』(シャーマット) 『とびきりすてきなクリスマス』(キングマン) 『クリスマスの猫』(ウェストール) 『クリスマスの幽霊』(ウェストール) 『はじめてのクリスマス・ツリー』(エステイス) 『シモンとクリスマス猫』(シントラー) 『あるクリスマス』(トルーマン・カポーティ)

短編集:

『クリスマス物語集』(中村妙子編訳) 『クリスマスのりんご』(ルース・ソーヤーほか)

長編読み物:

『サンタクロースにインタビュー』(ケストナー) 『サンタが空から落ちてきた』(フンケ) 『Xmas Break』(ジャクリーン・ジャクソン) 『クリスマス物語』(マルコ・レイノ)

そして、絵本で

『賢者のおくりもの』(オー・ヘンリー) 『クリスマス・キャロル』(ディケンズ)を♥♥

15年12月に入ったおとなの本

フィクション

*日本の読み物

『人魚の眠る家』(東野圭吾著 幻冬舎 2015) ID16457 『あこがれ』(川上未映子著 新潮社 2015) ID16459 『世にも奇妙な君物語』(朝井リョウ著 講談社 2015) ID16456 『墓標なき街』(逢坂剛著 集英社 2015) ID16455 『わが家のヒミツ』(奥田英朗著 集英社 2015) ID16460 『左近 上・下』(火坂雅志著 2015) ID16461~2

*外国の読み物

『K消えた娘を追って』(ベルバルト・クシンスキー著 小高利根子訳 花伝社 2015) ID16453 『書店主フィクラーのものがたり』(ガブリエル・ゼヴィン著 小尾英佐訳 早川書房 2015) ID16451 『横浜ヤンキー ー日本・ドイツ・アメリカの狭間に生きたヘルム一族の150年』(レスリー・ヘルム著 村上由見子訳 明石書店 2015) ID16452 『あなたを選んでくれるもの』(ミランダ・ジュライ著 岸本佐知子訳 新潮社 2015) ID16446 『涙の通り路』(アブドゥラマン・アリ・ワベリ著 林俊訳 水声社 2015) ID16448 『ムシェー小さな英雄物語』(キルメン・ウリベ著 金子奈美訳 白水社 2015) ID16449 『ナディア・ブーランジェ』(ジェローム・スピケ著 大西稜訳 彩流社 2015) ID16450

寄贈いただきました

『回想の昭和』(伊東貞三著 医学出版社 2015) ID16447 『境遇』(湊かなえ著 双葉文庫 2015) ID16470 『岸辺の旅』(湯本香樹実著 文春文庫 2015) ID16469※2015カンヌ国際映画祭監督賞受賞

文庫(日本)

『不思議な羅針盤』(梨木香歩著 新潮文庫 2015) ID16424 『幻想古書店で珈琲を』(蒼月海里著 ハルキ文庫 2015) ID16422 『命売ります』(三島由紀夫著 ちくま文庫) ID16429 『ご依頼の件』(星新一著 新潮文庫 2015) ID16425 『虫めづる姫君一堤中納言物語』(蜂飼耳訳 光文社古典新訳文庫 2015) ID16427 『井上ひさしの読書眼鏡』(井上ひさし著 中公文庫 2015) ID16423 『風の払暁(満洲国演義 1)』(船戸与一著 新潮文庫) ID16431 『事変の夜(満洲国演義 2)』(船戸与一著 新潮文庫) ID16432 『群狼の舞(満洲国演義 3)』(船戸与一著 新潮文庫) ID16433

*テレビ放映関連本

あさが来た: 『小説 土佐堀川一広岡浅子の生涯』(古川智映子著 潮文庫) ID16430※request 真田丸: 『真田幸村』(佐竹申伍著 PHP 文庫) ID16436 『城塞 上・中・下』(司馬遼太郎著 新潮文庫) ID16441~3 『真田忍俠記 上・下』(津本陽著 講談社文庫) ID16444~5

文庫(外国)

『チェルノブイリの祈り』(スベトラーナ・アレクシェービッチ著 松本妙子訳 岩波現代文庫) ID163435※2015 ノーベル文学賞受賞者 『眺めのいい部屋売ります』(ジル・シメント著 高見浩訳 小学館文庫 2015) ID16426※新春ロードショウ 『八十路から眺めれば』(マルコム・カウリー著 小笠原豊樹訳 草思社文庫 2015) ID16434

エッセイ・ノンフィクション

『ラオスにいったい何があるというんですか?』(村上春樹著 文藝春秋 2015) ID16468 『いちまき』(中野翠著 新潮社 2015) ID16458※request 『わが記憶、わが記録一堤清ニ×辻電オーラルヒストリー』(御厨貴、橋本寿朗、鷲田清一編 中央公論社 2015) ID16467 『これだけで、幸せ』(小川糸著 講談社 2015) ID16463 『井上ひさし×赤塚不二夫の笑劇場』(井上ひさし、赤塚不二夫著 河出書房新社 2015) ID16464 『私的読書録』(堀江敏幸×角田光代著 プレジデント社 2015) ID16466 『読んで、訳して、語り合うー都甲幸治対談集』(都甲幸治著 立東舎 2015) ID16465 『おめでどう』(小池昌代著 新潮社 2015) ID16440 『遊動論ー柳田国男と山人』(柄谷行人著 文春新書 2015) ID16438 『認知症新時代ー私らしく生きる』(毎日新聞生活報道部著 毎日新聞出版 2015) ID16439 『中国人の頭の中』(青柳明子著 新潮新書 2015) ID16437



もうすぐお正月
母屋の裏に千両が: